

1. 研究テーマ

通常学級における特別な教育的支援を必要とする児童の理解と支援の在り方  
～書字に困り感のある子どもたちの教育的支援～

2. はじめに

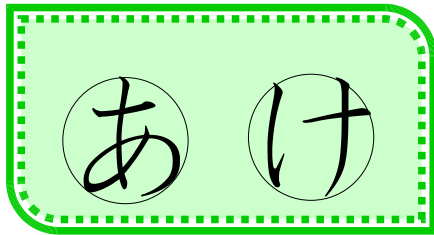
書字に困り感のある子どもたちの学習の様子は、漢字練習をしなかったり作文を書こうとしなかったりと、文字そのものを嫌がる傾向が見られる。この文字への「抵抗感」は学習に大きく影響しているのではないかと考える。そこで、小学校入学と同時に本格的に学習する平仮名について支援出来ないかと考えた。また、学年が進むにつれて定着しにくい漢字についても考えた。学校教育の中では避けては通れない、文字を中心とした学習への「抵抗感」を少しでも軽減出来ないかと考え教育的支援の方法を探った。

3. 研究の概要

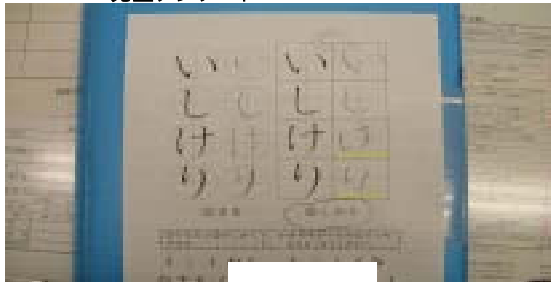
理論研究を通して書字の発達やつまづきを理解し、実践を通して平仮名書字に困り感のある児童への支援の方法を探る。  
 ・丸マスの平仮名プリントによる指導  
 ・四角マスと丸マスの書きやすさ調べ（アンケートによる分析）  
 漢字指導の様々な取り組みから有効な指導法を探り、所属校での実践を通しその有効性を検証する。  
 ・漢字プリントによる指導  
 ・絵入り漢字カードによる指導

4. 研究の内容

【丸マスによる平仮名指導】



児童アンケート



丸に収まりのよい平仮名

平仮名は、漢字に比べて曲線が多く丸みをおびている。平仮名を丸で囲むと、ほとんどの字が円周上の何点かで接しバランスよく丸の中に収まっていることが分かった。そこで、この丸マスに接するように書けば整った字が書け、書字に困り感のある児童にとって、支援につながるのではないかと考えた。

児童アンケート

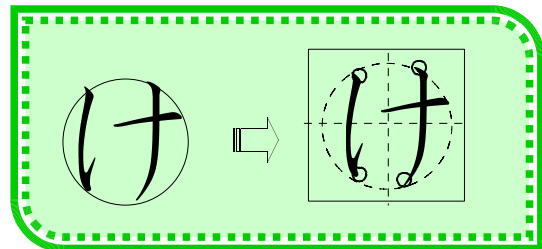
児童アンケートから、丸マスの方が四角マスより文字が小さくなることが分かった。大きく書くことが、書字の改善につながると考えていたので、丸マスを改善することにした。

丸マスの改善

- ・丸マスを実線から点線にする。
- ・外側に、普段使っている四角マスを付け実線にする。
- ・点線で4つの部屋に分ける。
- ・始点と終点が見えるように、円周上の接点に印のポイントを付ける。

改善前

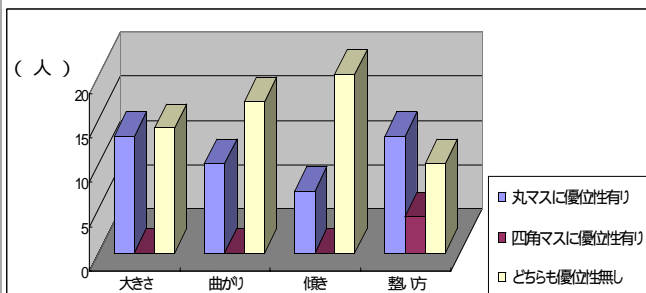
改善後



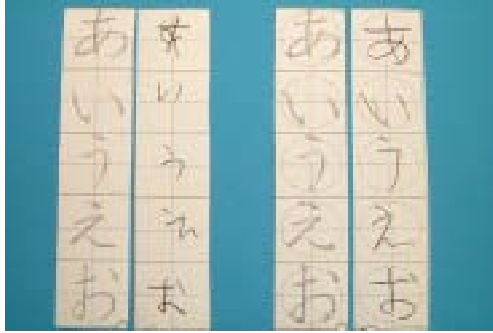
丸マスの優位性

- ・丸マスを点線にしたことにより、四角マスより大きな字が書けた。
- ・円の中心に書くようになり文字列の曲がり改善した。
- ・文字そのものの傾きの改善が見られた。
- ・円周上に始点と終点があることで、左右のバランスの取れた整った平仮名が書けた。

練習プリントによる分析(丸マス対四角マス)



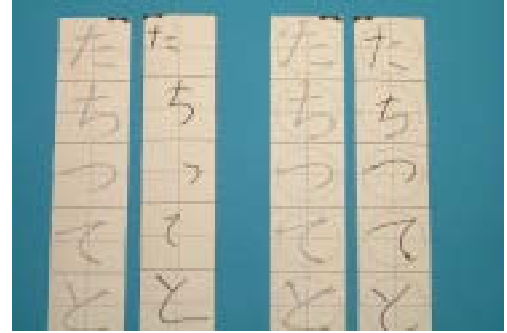
## 丸マス練習の成果



手本 四角マス 手本 丸マス

左 = 四角マス  
右 = 丸マス

練習成果の上がった  
Aさん Bさん



手本 四角マス 手本 丸マス

改善点 文字の大きさの改善が見られる  
「え」の傾きの改善が見られる  
文字列の曲がりの改善が見られる

改善点 文字列の曲がりの改善が見られる  
文字の大きさの改善が見られる  
文字の大きさが整っている

## 【漢字の指導】

### 漢字指導の問題点

学校での漢字指導は、各担任が様々な工夫をし定着を図るために漢字ドリルやテストを繰り返す。しかし、機械的なノートやドリルによる練習は、書字に困り感のある児童にとって、書くことが負担となり長期記憶には残っていないと考える。そこで、様々な漢字の指導法から漢字が定着しにくい児童の支援の方法を探った。

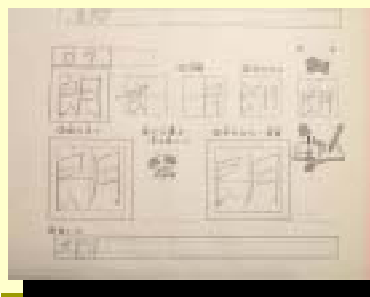
### 漢字の指導法例

- ・分解法(へん・つくり・小さなかたまり)
- ・声出し法(書く順で) ・ゴロ合わせ法
- ・フラッシュカード ・部首法
- ・絵カード(視覚) ・自作漢字カード
- ・五感法(目・声・耳・手・頭)
- ・丸付け法(津川式)

### 漢字指導における基本方針

- ア 枠を大きくし、かきやすくする。
- イ 練習する量を制限する(少なくする)。
- ウ 部首を意識しながら、分解する。
- エ 手のひらや机上などへ空書きをする。
- オ ゆっくりと考えながら練習する。

### 作成した漢字プリント



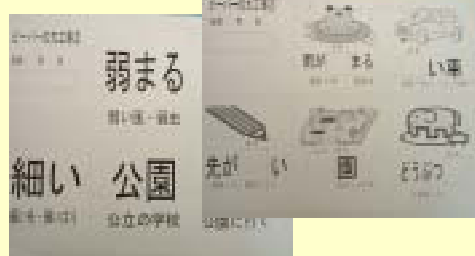
作成したプリントは、2年生の漢字テストで正解率60%程度の児童には効果的だった。しかし、正解率30%以下の3人の児童(以下漢字に困り感のある児童)には成果が上がらなかった。そこで、【絵】を取り入れイメージをふくらまる指導法を取り入れた。

### 絵入り漢字カード

#### 単語カード型 (2年生用)



#### 一覧型



絵入りの漢字カードは記憶の積み上げが見られ、有効であった。同じ絵入りの漢字カードでも3人の漢字に困り感のある児童にとって、書く練習を減らした一覧型の学習の方が成果が上がった。

## 5. 研究のまとめ

- ・丸マスによる平仮名指導は、1年生の平仮名学習には有効である。また、丸マスプリントは【観察】【比較】【検討】【修正】しやすい、学ぶ力を育てるプリントであると考えられる。
- ・漢字に困り感のある児童にとって、書く作業を減らし、イメージしやすい【絵】を取り入れた学習方法は有効であった。
- ・支援を必要とする児童にとって、従来の枠にとらわれない指導法を今後とも開発していくことが大切である。